

(別紙)

参考資料 2 分配額上位 10 作品、利用分野別分配額構成比について

平成全期間

CDの売り上げ枚数が最大になった平成 10 年を頂点として平成元年代、10 年代は CD の利用が大きな比率を占めていましたが、その後、DVD やブルーレイを中心とした映像での利用やネット配信における利用の比率が大きくなってきました。

CD、DVD、配信など利用の変化がある中でも、カラオケやテレビ・ラジオなどの放送における利用は常に変わらず多くの方々の耳に触れ、歌われることで、これらを通じた対価還元がクリエイターを支えてきました。

平成初期（元年代）

テレビドラマの主題歌がヒットしこれらの楽曲が上位に入る一方で、昭和に生まれた楽曲が平成に入ってもカラオケを中心に全国で歌い継がれていました。

平成中期（10 年代）

平成全期間で 1 位となった「世界に一つだけの花」を始めとしたヒット曲のほか、アニメなどの映像作品への利用が上位に入りました。また配信利用の分配を開始（平成 13 年）したのもこの時期です。平成初期に続きカラオケの人気曲も上位に入り、正に「多様化の時代」に入った年代といえます。

平成後期（20 年代）

ドラマ、アニメ、CM など映像と共にあった時代といえます。動画投稿サイトでの利用が多くなったのもこの年代です。一方で、ライブエンターテインメント市場の活況により、演奏会等の比率も伸びているのが特徴です。